

コンピューターソフト

1. 評価対象企業（13社）

日鉄ソリューションズ、T I S、野村総合研究所、オービック、トレンドマイクロ、日本オラクル、オービックビジネスコンサルタント、伊藤忠テクノソリューションズ、大塚商会、ネットワンシステムズ、日本ユニシス、エヌ・ティ・ティ・データ、SCSK

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目（注）数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	4	32
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	5	29
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	4	12
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	3	16
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	2	11
計		18	100

（注）評価項目の内容および配点は129頁参照

(2) 評価実施アナリストは18名（所属先17社）である。（130頁参照）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」（128頁）参照）

- ① 本年度は、**経営陣のIR姿勢等**ほか2分野において、項目の削除、統合または内容変更（配点変更を含む）を行い、評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は、68.9点（昨年度67.1点）であった。なお、総合評価点の標準偏差は15.8点（昨年度14.3点）となった。
- ② 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が70%（昨年度66%）、**説明会等**が72%（昨年度70%）、**フェア・ディスクロージャー**が81%（昨年度80%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が55%（昨年度60%）、**自主的情報開示**が63%（昨年度58%）となり、昨年度に比べ、**コーポレート・ガバナンス関連**が低下したが、**自主的情報開示**および**経営陣のIR姿勢等**は改善し、他の2分野はほぼ同水準であった。
- ③ 評価項目について見ると、全18項目のうち5項目が平均得点率で80%以上となった。
 - (a) 「決算説明会の状況が、終了後同日中に電話やウェブキャストで視聴等ができますか」（平均得点率89%〔昨年度同率〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：100%11社）
 - (b) 「経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか」（平均得点率87%〔昨年度90%〕）（得点率：95%3社・90%6社・85%3社）
 - (c) 「説明会資料等の付属資料が短信と同日に閲覧できますか」（平均得点率85%〔昨年度同率〕）（得点率：100%11社）

- (d) 「決算説明会などに経営トップが自ら出席して経営戦略等を十分に説明していますか」(平均得点率 82% [昨年度 81%]) (得点率: 90%台 2社・80%台 7社)
- (e) 「IR 部門に十分な情報が集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができますか」(平均得点率 81% [昨年度 73%]) (得点率: 90%1社・80%台 9社)

④ 一方、次の3項目は、平均得点率が50%台以下となり、低水準となった。

- (f) 「有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していますか。併せて、IR 部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していますか」(平均得点率 45% [昨年度 46%]) (得点率: 10%台 1社・20%台 3社・30%台 4社)
- (g) 「中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況、重視する経営指標(例えば、営業利益率、ROE等)が、十分に説明されていますか」(平均得点率 50% [昨年度 56%]) (得点率: 10%台 4社・20%台 2社)
- (h) 「非財務情報(ESG情報、統合報告書等)の開示に積極的に取り組んでいますか」(平均得点率 53% [昨年度 58%]) (得点率: 20%台 1社・30%台 3社・40%台 2社)

⑤ なお、次の項目は、昨年度、平均得点率が低水準であったが、本年度、全社において改善が見られ、平均得点率は13ポイント上昇した。

- ・ 「事業または財務上のリスク情報(不採算案件の発生・リスク資産・関連会社の動向等)の開示が十分になされていますか」(平均得点率 71% [昨年度 58%]) (得点率: 70%台 10社・60%台 3社)

(2) 上位3企業の評価概要

第1位 野村総合研究所(ディスクロージャー優良企業3回連続11回目)、総合評価点 87.0点 [昨年度比 +1.9点]

- ① 同社は、説明会等(得点率(以下省略)88%)、コーポレート・ガバナンス関連(84%)、自主的情報開示(79%)が第1位、経営陣のIR姿勢等が第2位(87%)、フェア・ディスクロージャーが同得点第2位(96%)となった。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、「決算説明会などに経営トップが自ら出席して経営戦略等を十分に説明していること」が最も高い評価となった。また、「IR部門に十分な情報が集積され、IR担当者と有益なディスカッションができること」および「有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していること」が共に高く評価された。さらに、「フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること、例えば、主要事業および主要取引先に関し、その収益性や将来性について積極的に開示する姿勢が見られること」が評価された。なお、「有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等の開催」に関し、DX(デジタルトランスフォーメーション)事業説明会などテーマ説明会の毎年開催を評価する声があった。
- ③ 説明会等においては、「セグメントの分類が的確で、かつ売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、変動要因について十分に説明されていること」が評価されたことに加え、「顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客名等が十分に記載され、費用の主要項目(労務費、外注費、機器販売原価等)および従業員数等の実績および計画が十分に記載されていること」が最も高い評価となった。これらの結果、この分野において第1位の評価となった。なお、セグメントの組み換えが頻繁にあり、長期比較が難しいとの声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「その取組姿勢」が高く評価された。また、「外国人投資家向け情報提供」も評価された。
- ⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、3項目(「コーポレートガバナンス・コードについて、十分な説明がなされていること」、「中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況、重視する経営指標(例えば、営業利益率、ROE等)が十分に説明されていること」および「資本政策(キャッシュポジション、金庫株等)、株主還元策(配当性向、自社株買い等)に関し十分に説明されていること」)が共

に最も高い評価となった。これらの結果、第1位の評価となった。

- ⑥ **自主的情報開示**においては、「非財務情報（ESG情報、統合報告書等）の開示に積極的に取り組んでいること」が最も高い評価となった。この結果、この分野において第1位の評価となった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 伊藤忠テクノソリューションズ（総合評価点 83.9点〔昨年度比+8.5点〕、昨年度第4位）

- ① 同社は、**経営陣のIR姿勢等**が第1位（88%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第2位（96%）、**自主的情報開示**が第3位（72%）、**説明会等**（86%）、**コーポレート・ガバナンス関連**（73%）が第4位となった。昨年度と比較すると、同得点率となった**コーポレート・ガバナンス関連**を除く4分野の得点率が改善し、総合評価点の上昇（上昇幅第1位）および順位の上昇（同第2位）につながった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「IR部門の機能」の2項目中、「IR部門に十分な情報が集積され、IR担当者とは有益なディスカッションができること」が、昨年度比14ポイント改善し、「有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していること、併せて、IR部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していること」が、同34ポイント改善した。また、「決算説明会などに経営トップが自ら出席して経営戦略等を十分に説明していること」が高く評価された。さらに、「フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること、例えば、主要事業および主要取引先に関し、その収益性や将来性について積極的に開示する姿勢が見られること」が最も高い評価となった。これらの結果、この分野において第1位の評価となった。なお、経営トップによる海外の最新技術トレンドに関する説明が有益との声や、主要事業説明会（DEJIMA事業、情報通信事業）が有益との声が寄せられた。
- ③ **説明会等**においては、「利益増減要因が明確かつ十分に説明されていること」が最も高い評価となった。また、「セグメントの分類が的確で、かつ売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、変動要因について十分に説明されていること、セグメント変更があった場合（合併等を含む）、過去と比較可能な情報が十分に開示されていること」が、昨年度比17ポイント改善した。さらに、「顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客名等が十分に記載され、費用の主要項目（労務費、外注費、機器販売原価等）および従業員数等の実績および計画が十分に記載されていること、変動要因について十分に説明されていること」が、同13ポイント上昇した。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「その取組姿勢」が高く評価された。また、「外国人投資家向けのIR活動に努めていること」も評価された。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「コーポレートガバナンス・コードについて、十分に説明されていること」が評価された。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「事業または財務上のリスク情報（不採算案件の発生・リスク資産・関連会社の動向等）の開示が十分にされていること」が最も高い評価となった、

第3位 日本ユニシス（総合評価点 79.2点〔昨年度比+2.3点〕、昨年度第3位）

- ① 同社は、**フェア・ディスクロージャー**が第1位（97%）、**説明会等**が第2位（87%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が第3位（74%）、**自主的情報開示**が第5位（69%）、**経営陣のIR姿勢等**が第7位（72%）となった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「決算説明会などに経営トップが自ら出席して経営戦略等を十分に説明していること」が高い評価となった。「有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していること、併せて、IR部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していること」については、平均得点率を下回る得点率にとどまった。注力領域については更なる開示が必要との声が寄せられた。
- ③ **説明会等**においては、「利益増減要因が明確かつ十分に説明されていること」が評価された。また、「セグメントの分類が的確で、かつ売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、変動要因について十分に説明されていること、セグメント変更があった場合（合併等を含む）、過去と比較可能な情報が十分に開示されていること」が最も高い評価となった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「その取組姿勢」が最も高い評価となった。また、「外国人投資家

向けの IR 活動に努めていること」も評価された。これらの結果、この分野において第 1 位の評価となった。

- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況、重視する経営指標（例えば、営業利益率、ROE 等）が十分に説明されていること」が評価された。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ ネットワンシステムズ（総合評価点 79.1 点〔昨年度比+6.2 点〕、同得点第 4 位〔昨年度第 7 位〕）

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャーが第 4 位（95%）、経営陣の IR 姿勢等（77%）、説明会等（85%）が第 5 位、コーポレート・ガバナンス関連が同得点第 5 位（72%）、自主的情報開示が第 7 位（64%）となった。昨年度と比較すると、5 分野とも得点率が改善し、総合評価点の上昇（上昇幅第 2 位）および順位の上昇（同第 1 位）につながった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「決算説明会などに経営トップが自ら出席して経営戦略等を十分に説明していること」が高い評価となった。また、「IR 部門に十分な情報が集積され、IR 担当者と有益なディスカッションができること」も高い評価となった。さらに、「フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること、例えば、主要事業および主要取引先に関し、その収益性や将来性について積極的に開示する姿勢が見られること」が最も高い評価となった。
- ③ **説明会等**においては、「利益増減要因が明確かつ十分に説明されていること」が最も高い評価となった。また、「セグメントの分類が的確で、かつ売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、変動要因について十分に説明されていること」が評価された。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分注意を払っていること」が最も高い評価となったことを含め、「その取組姿勢」が評価された。また、「外国人投資家向けの IR 活動に努めていること」も評価された。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「コーポレートガバナンス・コードについて、十分に説明されていること」が評価された。

以上

2019年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (コンピューターソフト)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス 評価項目4 (配点 32点)		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 評価項目5 (配点 29点)		3. フェア・ディー ローシャー 評価項目4 (配点 12点)		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示 評価項目3 (配点 16点)		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示 評価項目2 (配点 11点)		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	4307 野村総合研究所	87.0	27.9	2	25.4	1	11.5	2	13.5	1	8.7	1	1
2	4739 伊藤忠テクノソリューションズ	83.9	28.0	1	24.8	4	11.5	2	11.7	4	7.9	3	4
3	8056 日本ユニシス	79.2	23.1	7	25.1	2	11.6	1	11.8	3	7.6	5	3
4	7518 ネットフロンシステムズ	79.1	24.6	5	24.6	5	11.4	4	11.5	5	7.0	7	7
4	9719 SCSK	79.1	23.3	6	25.0	3	11.3	5	11.5	5	8.0	2	2
6	3626 TIS	78.2	22.8	8	24.0	7	11.3	5	12.8	2	7.3	6	4
7	9613 エヌ・ティ・アイ・データ	77.3	25.0	4	22.3	8	11.3	5	10.9	7	7.8	4	8
8	2327 日鉄ソリューションズ	74.4	26.2	3	24.2	6	11.3	5	5.8	10	6.9	8	4
9	4704 トレンドマイクロ	63.1	19.3	11	20.8	9	11.2	9	6.4	8	5.4	12	9
10	4768 大塚商会	57.0	20.9	9	15.9	11	7.1	11	6.4	8	6.7	9	11
11	4716 日本オラクル	53.6	13.6	13	18.8	10	10.7	10	4.9	11	5.6	11	10
12	4733 オービックビジネスコンサルティング	45.7	19.5	10	11.8	12	4.7	12	3.9	13	5.8	10	12
13	4684 オービック	37.2	16.3	12	10.2	13	1.3	13	4.0	12	5.4	12	13
	評価対象企業評価平均点	68.85	22.35		21.00		9.71		8.86		6.93		

(注) 総合評価点と同順位の場合、社名はコード番号順に掲載。

2019年度 評価項目および配点(コンピューターソフト)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス (32点)	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・決算説明会などに経営トップが自ら出席して経営戦略等を十分に説明していますか。	8
(2)IR部門の機能	
①IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	8
②有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していますか。併せて、IR部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していますか。	8
(3)IRの基本スタンス	
・フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていますか。例えば、主要事業および主要取引先に関し、その収益性や将来性について積極的に開示する姿勢が見られますか。	8
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 (29点)	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示 [連結中心(連結会社がない場合は「単独」と読み替える)]	
・利益増減要因は明確かつ十分に説明されていますか。	4
(2)説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示 [連結中心(連結会社がない場合は「単独」と読み替える)]	
①説明会資料等の付属資料が短信と同日に閲覧できますか。 [閲覧できる:3点 閲覧できない:0点]	3
②セグメントの分類は的確であり、かつ売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていますか。セグメント変更があった場合(合併等を含む)、過去と比較可能な情報が十分に開示されていますか。	8
③顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客名等が十分に記載され、費用の主要項目(労務費、外注費、機器販売原価等)および従業員数等の実績および計画は十分に記載されていますか。また変動要因について十分に説明されていますか。	8
④四半期ごとに業績動向に関する説明会(電話会議を含む)を開催していますか。 [全て開催:6点 その他:0点]	6
3. フェア・ディスクロージャー (12点)	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
①経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	2
②決算説明会の状況が、終了後同日中に電話やウェブキャストで視聴等ができますか。 [終了後同日中にできる:4点 後日できる:2点 できない:0点]	4
③決算説明会の質疑応答の状況が、電話、ウェブキャストあるいはウェブサイトで十分に分かるようになっていましたか。	4
(2)外国人投資家向け情報提供	
・外国人投資家向けのIR活動(海外IR)に努めていますか。 [海外IRあり:2点 なし:0点]	2
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 (16点)	配点
(1)コーポレートガバナンス・コード	
・コーポレートガバナンス・コードについて、十分な説明がなされていますか。	2
(2)目標とする経営指標等	
・中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況、重視する経営指標(例えば、営業利益率、ROE等)が、十分に説明されていますか。	10
(3)資本政策、株主還元策の開示	
・資本政策(キャッシュポジション、金庫株等)、株主還元策(配当性向、自社株買い等)に関し十分に説明されていますか。	4
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 (11点)	配点
①事業または財務上のリスク情報(不採算案件の発生・リスク資産・関連会社の動向等)の開示が十分になされていますか。	6
②非財務情報(ESG情報、統合報告書等)の開示に積極的に取り組んでいますか。	5

コンピューターソフト専門部会委員

部会長	上野 真	大和証券
部会長代理	菊池 悟	SMBC 日興証券
	黒木 文明	ニッセイ アセット マネジメント
	桜井 雄太	野村アセットマネジメント
	田中 誓	野村証券
	田中 秀明	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
	堀 雄介	みずほ証券

評価実施アナリスト（18名）

浅川 直騎	朝日ライフ アセットマネジメント	佐藤 博子	ジェフリーズ証券会社 東京支店
石井 孝一郎	三菱 UFJ 信託銀行	山藤 秀明	QUICK
伊藤 真仁	アセットマネジメント One	田中 誓	野村証券
岩渕 啓介	岡三証券	田中 秀明	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
上野 真	大和証券	土門 泰	りそな銀行
大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント	滑川 晃	シュロダー・インベストメント・マネジメント
菊池 悟	SMBC 日興証券	堀 雄介	みずほ証券
黒木 文明	ニッセイ アセット マネジメント	前田 俊明	QUICK
桜井 雄太	野村アセットマネジメント	渡辺 洋之	三井住友 DS アセットマネジメント

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。